

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600380		
法人名	社会福祉法人 石狩市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームはまますなごみ		
所在地	石狩市浜益区実田93-17		
自己評価作成日	令和4年1月4日	評価結果市町村受理日	令和4年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0197600380-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0197600380-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年2月8日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年を通して四季がはっきりしていて大きな窓からいつでも見える。田舎なので静かで鹿やキツネの鳴き声などが聞こえる。暖かくなると外で焼肉や流しソウメン、窓から見える公園で昼食会や運動散歩、特養と併設の為、顔見知りが多くすぐ二階に行くと会える。コロナでなければ遊びに行っている。年間行事も共同で行っており大変利用者さんには好評です。区内で行う文化祭・カラオケ大会・老人運動会・お祭り等も参加しており、おみこしや踊り山で区民が来園してくれます。石狩市支所の包括の方々も青空体操を行っております。利用者さん全員楽しそうに参加されます。ゆったり生活しております。

当事業所は、石狩市北部の自然豊かな浜益区に立地し、母体法人は「ふくしの里」として浜益温泉・温泉公園と隣接し、特別養護老人ホーム、グループホーム、ディサービスセンターと3つの事業所、石狩市花川北、南と2つのディサービスセンターを運営している。鉄筋コンクリート造2階建ての1階には1ユニットのグループホームに併設した2階特別養護老人ホームと多目的ホールを共有し、会議や研修などで使用しており警備員も配置されている。今回の外部評価でも検温、手洗いソープ、うがい液、アルコール消毒、ソーシャルディスタンスを確保し、万全のコロナ対策で実施している。広々とした共用空間の1階は、居間の大きな窓から温泉公園の木々を眺めながら、ゆっくりソファで寛ぐことができる。「なごみの」命名由来は「和む」「和やかになる」「穏やかになる」から取り入れ、職員は利用者が居間などでゆったりとした生活できるケアや環境を提供している。10年以上勤続しているベテラン職員が多く、また外国人労働者なども研修後ケアサービスに努めコロナ禍でありながら明るく丁寧で親切であると利用者家族から高評価を得ている。管理者は、職員の意見や提案に耳を傾けながら一緒に話し合い、各利用者が笑顔で穏やかな日々が送れるように統一したケアを行っている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が全員が見えるホールに大きく貼っている。	事業所理念と介護理念はホールに掲示している。研修や会議で理念を確認し、職員の名札の裏に理念を表記し常に携帯している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	区内の文化祭、老人運動会、カラオケ愛好会イベント 区内劇団等は必ず参加していた。	区域行事や学校行事、港祭り等に参加している。中学校には福祉についての出前講演を実践している。中学生の当事業所訪問や見学もあつたり、インターシップの横暴の受け入れを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生に毎年出前講座を開き施設内の様子、介助、介護等の勉強会を行っている。 又小学生との交流会等を行っている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で外部評価の報告をしている。	コロナ禍の為に運営推進会議は書面会議として2ヵ月毎に開催し、運営報告や利用者状況、行事内容や予定、避難訓練内容等をまとめた議事録を浜益行政職員、区域民生委員、区域自治会長などの役員や家族に送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所の際・各種会議・その他の事でほぼ毎日のように連絡を取り合っている。	市担当者とは申請や更新、継続などの書類手続きについて訪問したり電話等で助言を得るなどしている。また、浜益支所とのシルバー会議などで相互に電話や来訪するなど、密に連絡を取り合っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に一回行い、身体拘束をしないという事の再確認を行っている。	「身体拘束など適正委員会」を年4回開催にしている。このほかに年2回の内部研修会を行い、スピーチロックなど実際のケア場面でのように対処すべきか話し合い、理解して行動できるよう取り組んでいる。出入り口は夜間施錠しているが玄関は警備員が安全を確保している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士気をつけ、お互いに声掛けをしながら日々生活している。			

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は何かにつけて理解しているが、今までそのような方が入所したことがない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を交わす際、必ず行い、その他で分からないことがあれば電話や面会等でお応えできる体制にいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々の要望や意見は聞き入れるようにし、他の利用者さんの家族等にも電話連絡させて頂いている。	毎月利用者の「なごみだより」を利用者の写真とコメントを添え近況を知らせている。家族とは主に電話で連絡を取り合い、要望や意見があれば申し送り時に発表し職員間で共有してサービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は常時間きますがそれを運営につながるような話は一度もない。	管理者は各職員からの日常業務や支援方法に関する率直な提案や気づきを尊重する姿勢を維持している。また、職員より具体的な改善事項等が寄せられ、検討がなされている。職員は1年に1回施設長と面談を行い契約の更新をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間等は職員と話し合い無駄な時間を省いたり手厚くするところは手厚く出来るように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの状況を見ながら外国人研修生・職員に介護福祉士実務者研修に通う予定。良い研修があったら、計画したいと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	石狩市ケアマネ研修会やグループホーム会議等出来るだけ職員と共に出席している。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前からご家族や利用者さんとの面談をしある程度の情報を集めて、入所後徐々に利用者さんの希望要望の把握に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後は家族の方々も心配なさっておりますのでしばらくはご家族等の連絡と利用者さんが早く溶け込めるように職員も気配りしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用という事例が無い為、その人が必要としている介助の見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ちょっとした作業(カーテン引き、トイレトーパーの補充、掃除等)を一緒にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	少しの事でも近況報告と言う形で共有し、どのように支援していくか意見を聞くようにし、結果どうだったか報告するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ過で中々区民との交流は最近しておりませんが特養に知り合いがいる方は、出来るだけ交流出来るように支援しております。	コロナ禍の中、面会や外出などは感染対策委員会で決定し、家族には電話や通信で知らせている。2階には理容室が有り、月1回の散髪を支援している。地域的特性から2階の特養ホームとは知り合いが多く合同行事、昼食会では相互で楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元々小さな村なので何等か皆知っている方が多い為、孤立等の心配はないのですが、女性ばかりで男性が一人なので最初は苦労しましたが今では特に問題なく仲良くされております。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院治療の為入院がきっかけで退所する方が多いですが、その後の様子は何うように心掛けております。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人本位で暮らせるように入所当初は常に希望を聞き、生活が落ち着いてからも本人の思い等家族に伝え生活しやすくサポートしている。	日頃の関わりの他、アセスメント・家族と電話等から意向の把握に努め、記録している。把握した意向は職員間で記録や会議で検討し、今後に活かすように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独居や子供達とも離れて暮らしていた方々なので、入所してから、本人の落ち着くもの、持ってきた物や聞き、家族等に伝えるなどしている。サービス利用は包括と連絡を取り合いどのような状況だったか把握するようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	無理に把握しようとしていないが自然と分かるようになる。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望重視し出来るだけ継続できるような計画にしている。	計画作成者は本人の意向、職員、介護記録を反映させた短期3ヶ月、長期6ヶ月の介護計画書を作成して家族に説明し同意を得ている。また、特段の体調変化が見られる時には随時対応して、常に現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り時や日常見守りをしている中でどの方法がいいか、探り話し合うようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方の身体状況に合わせ、居室の模様替えや使用する補助具の使用や希望を出来るだけ取り込んだ支援を行っていると思う。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の毎日の日課や一日の流れを出来るだけ変えず支援することを心掛け出来ることは本人に任せ、出来ない所だけ支援するよう見極めるようにしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月3回回診、専門病院の受診等看護師と相談し行っている。	区域内は国保診療所、歯科診療所が各1軒あり、医療は月3回の往診、ワクチン接種は当事業所で行い、薬は2週間に1回診療所で一包化している。通常の健康管理は特別養護老人ホームと兼任の看護師が支援している。専門病院は主治医の指示に従っている。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変わったことがあれば、まず看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	何かあれば主治医に相談し支持を仰ぐようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	どうしても病状によってはターミナルを受け入れられないケースもありその時は家族に相談し、療養病院に移って頂く、その他特に老衰の場合はそのままターミナルで家族とDrと密に連絡を取り合い行っている。	入所時に当事業所で出来るターミナルケアについて「重度化対応に関する対応方針」で看取り介護への対応も含めて説明している。重度化した場合は、利用者や家族、医療関係者と連携し、方針を共有して最大限の支援をしている。	利用者や家族には看取りに対する対応指針の理解を得られるよう努め、職員の看取り研修会の立ち上げで、今後の看取り対応が出来る事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ過出なければ訓練を新しい職員が入るたびに全職員対象に行っていた。又3年に1度行っていた。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員会等で話し合いが行われていたり、訓練も行っております。年に夜間想定1回、昼間1回の訓練を実施している。	コロナ禍で今年度は消防職員の立会いはないが、年2回の避難訓練(日中と夜間想定)を実施し、運営推進会議で内容を発表している。胆振東部地震時のブラックアウトでは、非常用大型発電機が稼働し、不安なくケアに取り組んだ。5日分の備蓄品(飲料水と食料品)と冬季暖房用の石油トープを備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一日中縛りのない生活を心掛けている。マイペースで生活できるよう支援している。	スピーチロックや言葉使いなどは「虐待防止委員会」で学びサービスに反映させ、不適切な言葉はその都度職員間で注意できる環境を作っている。入所時に氏名、個人情報、写真掲載など個人情報やプライバシーについて説明し同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族には言えない希望、要望を言ってくれていると思います。家族には申し訳なくて言えない事でも日常的に言われていると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく余計な声掛けをせず、居室に居たいときには居室に行かれ、ホールに居たい時はホールに居ると言う感じで家に居ると同じように過ごされております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感の無い洋服、例えば真夏に真冬の毛布のようなものを来ている時以外は日に何度も洋服を変えて着てくる方もいらっしゃいます。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	残念ながら片づけをしてくださる利用者さんは現在いません。面倒くさいと言われる、全員食事が楽しみの様です。	食材は1週間分を業者に発注し、食材に合わせて職員が調理している。誕生日はケーキで祝ったり、行事食は旬の物で調理したり出前を頼んだりして楽しんでいる。昼食会ではお寿司、天ぷらなど好みのもので楽しんだり、年に数回の海鮮や焼肉BBQを楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	時々栄養士に献立を見て頂いている。水分は気を付けて取って頂くように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1名以外は皆総入れ歯で毎食後口腔介助している。1名は総自歯なので磨いてもらっております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在1名が布パンツ、他は失禁が2名、他は失禁はそんなにしません本人の遺志により紙パンツ着用となっております。	排泄パターンチェック表で把握し合図を見逃さない様に努めている。布パンツ、紙パン、パッドサイズなど状況に合わせて使用している。声掛け誘導に心掛け、自然に排泄ができるよう、食事、水分、乳製品に心掛け、また、体を動かす事にも意識して支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては運動・食べ物だけではどうしようもなく服薬により排便調整を行っている。薬を服薬しても何日も出ない方もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	皆屋間希望で誰も拒否無く入浴されております。	月、水、金と週3回午後到大浴槽を利用し3人ずつの入浴し、気の合う方同士で入浴して楽しんでいる。保湿効果を含め入浴剤を使用し、肌が乾燥しないよう努め、脱衣室と浴室は温度差が無いように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを見たい方は起きていて、眠い方は居室で寝ると自由にしている、昼間寝ている方は夜間起きている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は誤飲が多かった為、日付と名前、いつの薬かを服用前に読んでもらい間違いないか本人にも確認してもらい、こちらで口に入れる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナでなければ、それぞれの家を見に行ったり、ドライブしたり、年間行事を特養と行っている。区内の会館の行事にも足を運んでいる。		

グループホームはまますなごみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつもなら利用者の希望に合わせてドライブ等、区内の老人会等参加している、懐かしい顔に逢うと大変喜んでいる。	花見、さくらんぼ狩り、紅葉観賞、公園での弁当、ワゴン車を利用してミニドライブなどの行事がコロナ禍により自粛され、利用者は室内でテレビやDVD観賞で過ごす時間が多くなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症が進み物取られ妄想が利用者同士の間が悪くなったこともあり一切お金は所持しておりません。どうしても不安な方は家族の了解の元無くなくても責任は取らないという事で持たせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から一週間に一度必ず来る方もいる、電話は自由にできる。手紙は切手を家族に買って頂き自由に出せるようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには場所が分かるように、目印になるよう工夫している。温度はどこを歩いても一定になるように管理されている。	明るく広い居間兼食堂はテーブル、イス、ソファ等ゆとりをもって配置している。また、使い勝手が良く腰をかけることができる畳の畳の上がりが配置されている。壁に利用者の作品や行事写真を飾り付け生活観を感じることが出来る。共用空間全体は温度差がない安定した環境になるよう管理されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの座る場所を利用者同士の様子を見て決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ってきている方と全く持ってこない方の差があるが、それぞれ落ち着いている様子。	居室は床暖房で洗面台とベッド、クローゼットが備えられている。家族の協力の下、家庭で使用していた馴染みの家具や衣類等を自由に持込み、利用者が居心地良く過ごせるよう支援している。部屋の窓から周辺の畑、近くの山々の眺めを楽しむことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	拘束にならないように配慮し、運動能力を考え、本人に了解の元、居室配置の工夫を行っている方もいる。他は本人本位。		